

---

# 彼女の幸福

麻未夢

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

彼女の幸福

### 【Nコード】

N1252P

### 【作者名】

麻未夢

### 【あらすじ】

老夫婦に愛された『彼女』の幸福

彼女が、老夫婦の元へ引き取られてから10年。老夫婦は、まだ幼かった彼女を初めて抱きしめた日から今日まで変わることなく、彼女を他の何よりも愛し、慈しんでいた。

彼女は、とてもワガママだった。その上、酷く飽きっぽい。だから昨日までの大好物も、今日には一切手をつけられることなくゴミ箱行きになることも、決して珍しくはない。

それでも、老夫婦は彼女のそのワガママを叱りもせず、新しい食事を用意してやるだけだった。

彼女のベッドは、日当たりの良い窓辺に置かれている。

暖かな日差しの下、彼女はそのベッドで昼寝をするのが大好きだった。老夫婦の手が、彼女の身体を優しく撫でてくれるのも、おばあさんが小さな声で子守歌を歌うのを夢うつつの中で聴くのも、彼女は大好きだった。

夜は、おじいさんと一緒に眠った。あまり広くはないベッドの上で、おじいさんの身体の横に、そつと小さな身体を寄せて眠る。暖かくて、彼女はすぐに眠りに落ちた。

どこかへ出かけていって、そして帰宅したおじいさんを彼女が玄関まで迎えに行くと、おじいさんは彼女の頭を力サついた大きな手で撫でながら「ただいま」と声をかける。彼女の鼻は、おじいさんが後ろ手に隠し持っている『おみやげ』を見つけたし、早く食べたいと催促するように声を上げた。

ある日、おじいさんがいつもと同じように出かけ、そして二度と帰ってこなかった。

彼女はおじいさんのベッドに身体を横たえ、寂しそうにないた。

おばあさんは、そんな彼女の横にこしかけ、彼女の身体を優しく撫でながら「あなたがいて良かった」と呟く。

彼女は、おばあさんの膝の上で昼寝をするようになった。おばあ

さんの歩く後ろをついて回るようになった。

おじいさんの事は、もう忘れてしまったけれど、それでも心のどこかに寂しさを感じていたのだろう。あるいは、おばあさんの寂しさを感じたが故の行動かもしれない。

おばあさんは、彼女が自分の後ろをついて歩く愛らしい姿に、微笑みを浮かべた。

ある朝、彼女は家の中の慌ただしい様子に、なんだか怖くなって毛布の下にもぐり込み、必死におばあさんと呼んだ。

けれど、おばあさんは来てはくれなかった。

なきつかれ眠っていると、毛布をはがされ、知らない手に抱き上げられた。

老夫婦の手しか知らない彼女は、その老人の手とはまるで違う、柔らかい手の感触に驚いて暴れる。

爪を立てた。噛みついた。それでも、その人は彼女を決して放さない。

その人は、彼女が落ち着くのを待って、そして彼女の小さな身体を抱きしめた。

「私と暮らしましょうね」

その人がそう言った途端、彼女は何となくではあるが、おばあさんがもう帰ってはこないのだという事を理解した。

タオルを敷いた段ボール箱に入れられて車に乗せられ、着いた場所でお気に入りだったベッドを見つけた彼女は、そこで身体を丸める。

撫でてくれる手は老夫婦の物とはまるで違う物だったが、彼女は幸せだった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1252p/>

---

彼女の幸福

2010年12月3日19時08分発行